

# 意思決定支援における 好事例紹介・課題事例検討

日本意思決定支援ネットワーク SDM-Japan

小杉弘子

森地 徹

本間奈美

# 意思決定支援の実践例

—「よかれと思って」支援から  
「心からの希望」に基づく支援へ—

## 本人が変わる意思決定支援

3

### ヒロさん 20代

- 父母はヒロさんが小さい時に離別。母に育てられる。
- 母は精神障害を持ち、生活保護を受給している。
- 2歳下の弟がいるが、折り合いが悪い。
- 小学校・中学校は普通学校の特別支援学級に在籍。
- 小学校から高等学校までは障害児施設で生活。
- 普通高校に入学するが、他の生徒からのいじめに遭い不登校に。特別支援学校高等部に転校し、障害児施設から通学。

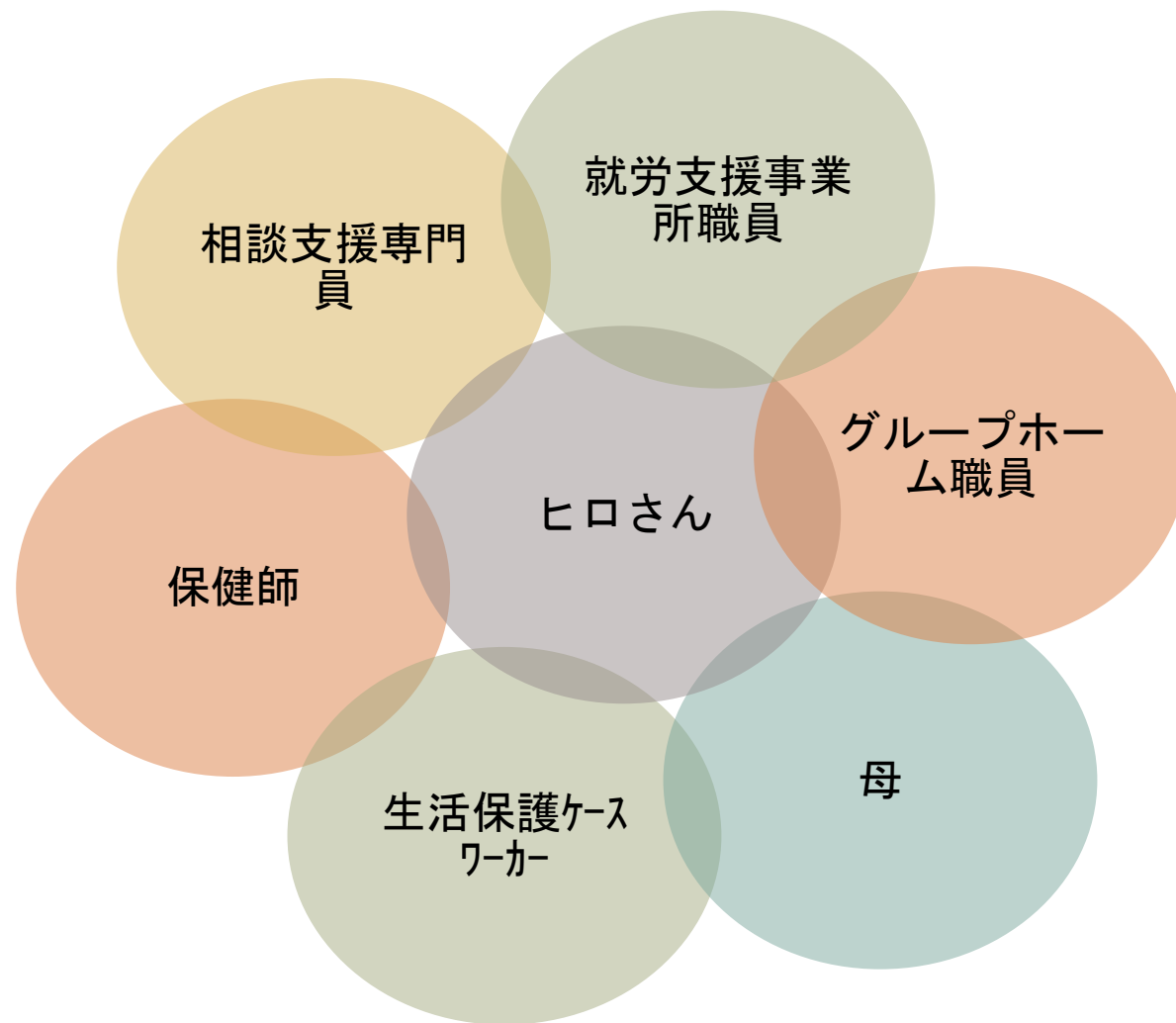
# ヒロさんの生活は...



- 特別支援学校卒業後、グループホームに入居。
- 卒業と共に、就労移行支援事業所へ通所。
- グループホームや就労移行支援事業所で周りとうまくいかないという気持ちが強くなる。
- 母の住むアパートに帰ることが多くなり、通所も減り、家に閉じこもるようになる。
- 母から、家に来ると暴言も多く自分勝手に対応に困っていると相談がある。

# ヒロさんの応援団

- 相談支援専門員
- 就労支援事業所職員
- グループホーム職員
- 地区担当保健師
- 母の生活保護ケースワーカー
- 母



# その後のヒロさん...SDMの活用

- 相談支援専門員が、就労移行事業所サービス管理責任者と共に、本人の希望を聞く機会を設ける。
- 本人からは、①グループホームを出て、ひとり暮らしをしたい、②仕事をしたい、③彼女を作って将来は結婚したい、との希望が聞かれた。
- 本人の希望を元に、希望を中心として、メリット・デメリットを考える会を企画。市の保健師やワーカー、母などを協力者として入れる。



# **Best Interest型視点に基づく**

## **…意思決定支援？あるある**

- 私、働きたいんです。  
⇒ え？作業所も行けてないよね。難しい
- ひとり暮らしをしてみたいんです。  
⇒ お金もない、家事もできないし、難しいのかなあ。
- 出会いパーティーに参加したい。  
⇒ 出会いかー彼女欲しいよね。…うーーん。
- 毎月漫画を買いたいです。  
⇒ お仕事行ってくれるとお給料で買えるかもね。  
…じゃあ現実的に考えるとさ。

**= 最善の利益(Best Interest) ?**



## Expressed Wish型視点に基づく

### 本来型・意思決定支援 あなたの希望は？



- 私、働きたいんです。  
⇒ **どんな仕事をしたい？働くためにはまず何ができると思う？**
- ひとり暮らしをしてみたいんです。  
⇒ **どんな場所で、誰と、どういう風に暮らしてみたい？**
- 出会いパーティーに参加したい。  
⇒ **彼女が欲しいのかな。異性の誘い方は？**
- 毎月漫画を買いたいんです。  
⇒ **どんな漫画が好きなの？お金の面は？**



**メリット・デメリットもわかるように、  
一緒に考えてみようか！**



# 意思決定支援によるヒロさんの変化

- 希望についての様々な選択肢を考え、体験談を聞く、見学をする、など相談支援専門員と行う。
- 希望は、サービス等利用計画に落とし込み、必要なサービスの利用や関係機関や地域資源につなげる。
- 最終的に、
  - ①一人暮らしのためにアパートを契約
  - ②自分が落ち着いて過ごせる作業所に行く
  - ③就業・生活支援センターに登録を行った。

今まで言えなかった希望が言えた！



# 意思決定を阻む要素とは...

- 話せなければ言葉がないと思ってしまう
- 表明がなければ、意思がないと思ってしまう
- 障害があることで、達成できる能力がないと判断してしまう

→本人の可能性を信じていることができない  
その理由はどこにあるのでしょうか

サービス提供  
機関の事情・  
利益優先

安全を保障できない  
責任を持ちかねる  
(リスク回避)

情報・経験の不足

逆に先回りして  
代行してしまう  
(パターンリズム)

**心からの希望 (Expressed Wish)  
をひも解くための会話とは？**

**小杉 弘子**



# うまく思いを伝えられなくても誰しも意思をもっています



高齢者や認知症の方、障害のある方の胸の内を理解することは容易ではありません。

その方の意思を汲み取り、夢や希望を理解できるかどうかは聞き手の力量にかかっているのではないのでしょうか。



# 心からの希望（Expressed Wish）をひも解く

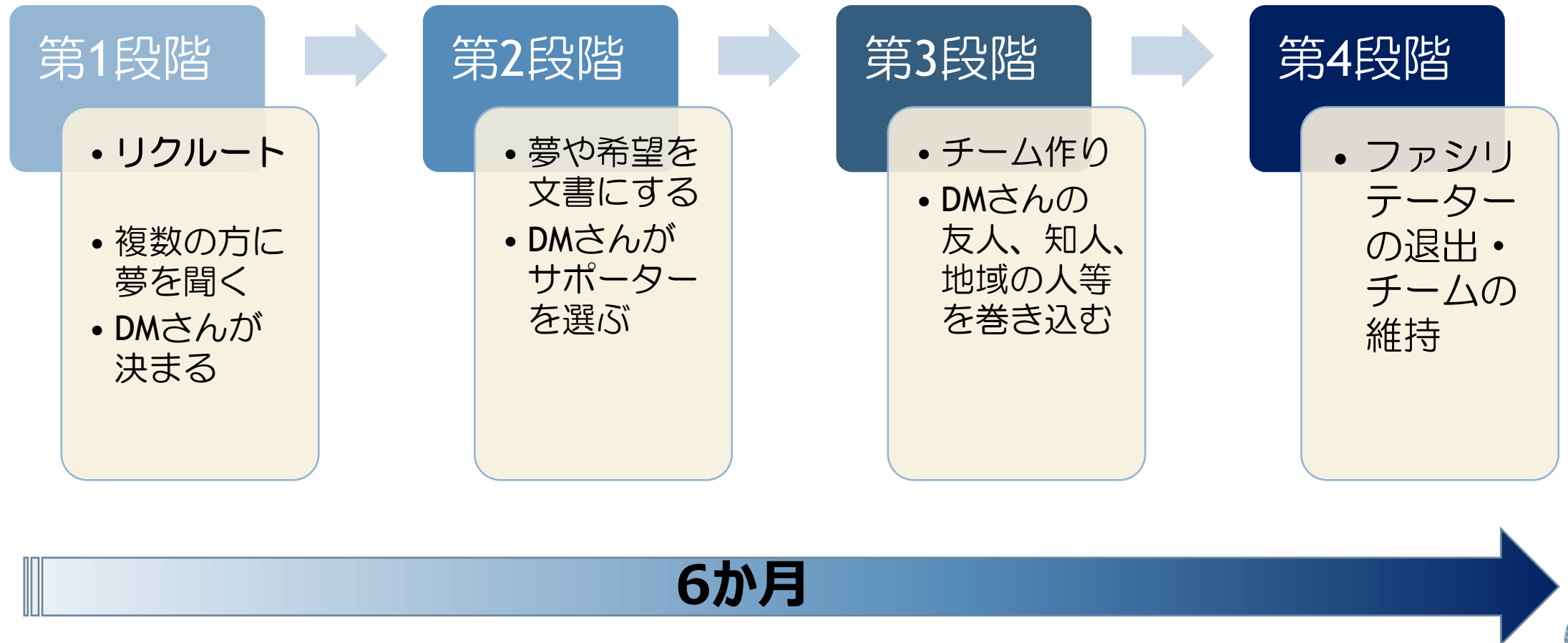
## 実践的ファシリテーション （Practical Facilitation）

意思決定のために支援が必要な方をサポートする実践的ファシリテーションでは、ご本人の内なる思いをひも解き、意思の表出を支援する場面で役立つスキルを、支援者が効果的に活用できるようになることを重視します。

1. 実践的ファシリテーションによる意思決定支援の流れ
2. 意思決定を支援するチーム
3. 夢と希望を広げる「目的のある会話」

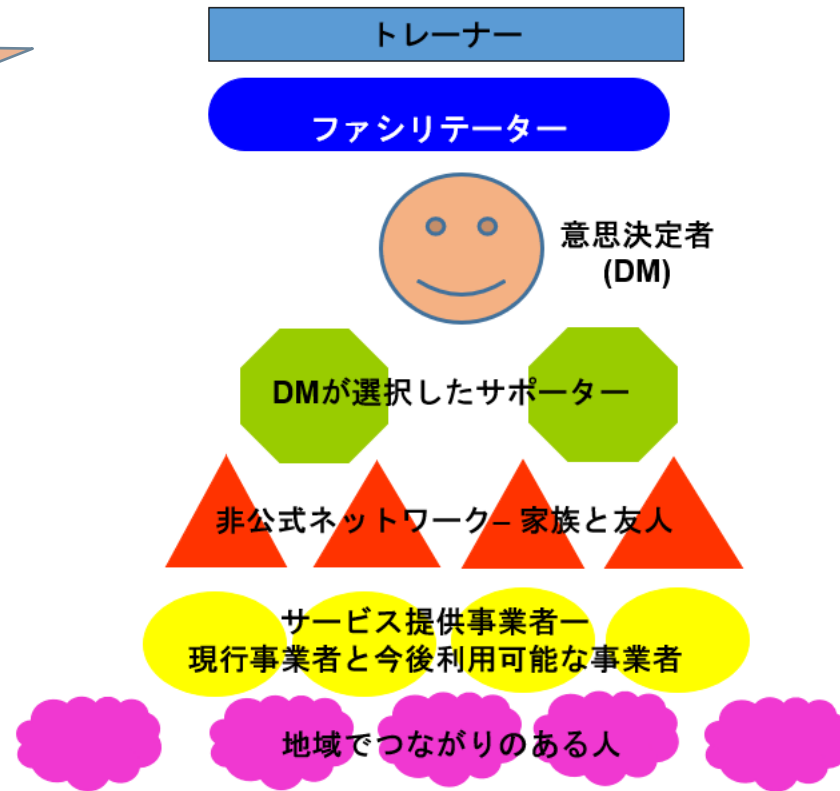


# 1. 実践的ファシリテーションによる意思決定支援の流れ



## 2. 意思決定を支援するチーム

地域開発モデル



意思決定支援の過程で、数多くのつながりができる



# 3. 夢と希望を広げる「目的のある会話」



顔なじみの方に声をかける：「お話しませんか？」

- その方のコミュニケーションの特徴を知っていること
- 3, 4人で一緒に話す、1時間以内



落ち着いて話せる、静かな場所を選ぶ

- その方がよく知っている場所
- 家族、支援者、パーソナルアシスタントは同席しないことが望ましい



夢や希望について話す

- 大きく考える
- できることより、やりたいこと、ワクワクすること

まずグループで語り合います。





# 3. 夢と希望を広げる「目的のある会話」

「目的のある会話」とは、

- **相手の心からの希望**を浮き彫りにするための会話です。
- 言葉以外で夢や希望を表す人の、**意思や好き・嫌い**を読み解くための会話です。

「目的のある会話」をするファシリテーターは、

- 夢や希望について、自由に語れるようにサポートします。
- 効果的なファシリテーションの基本を学びます。
- ファシリテーションを実践する場面で、コーチング・メンタリングを受けることでスキルアップできます。

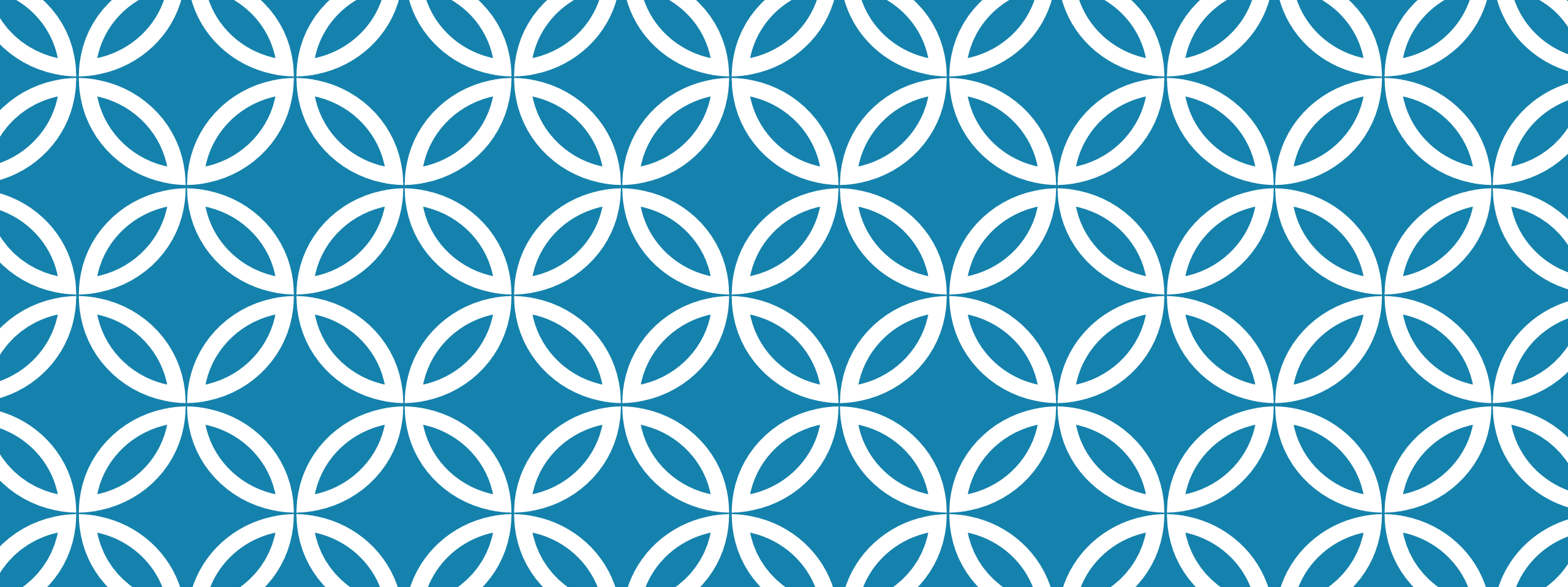


# 3. 夢と希望を広げる「目的のある会話」

## 「目的のある会話」に役立つスキル

1. 意見なし、助言なし
2. 現在と今後のことを話す
3. 相手の話に巻き込まれない
4. 本人の経験、希望、夢をひろげるチャンスをさがし、  
「大きく考えましょう」





# 意思決定支援における 課題事例検討

森地 徹

# はじめに

- これから動画をご覧いただいた上で意思決定支援場面における課題事例検討を行っていただきます
- 動画の中では意思決定支援におけるスキルを使う場合と使わない場合が出てきますのでそれぞれの違いについて確認してください
- 検討を行っていただく事例の概要については次の通りとなります

# 事例の概要（1）

## 意思決定者の概要

- 長島さんには中度の知的障害があり、両親と一緒に暮らしているが一人っ子であり兄弟はいない
- 長島さんの両親は共に80代であり、それぞれ持病があることから、自分たちが存命のうちに施設に入所させたいと考えているが、そのことについて長島さんと話し合ったことはない
- 長島さんの両親は長島さんのことを子ども扱いしており、特に母親は長島さんのことは母親である自分が決める必要があると考えている

# 事例の概要（2）

## 意思決定支援に至るプロセス

- 長島さんが通っている通所施設で意思決定支援の取り組みが行われることとなり、サービス管理責任者の川田さんが利用者の中から意思決定者を募ることとなった
- 川田さんの担当の利用者のうち意思決定支援を必要としていそうな長島さん、於保さん、小杉さん、森地さんに集まってもらい、川田さんの司会でそれぞれの夢や希望を語ってもらうことになった

# グループワーク

- これから5～6名1組のグループに分かれていただきます
- あらかじめお願いしている進行補助者を中心に意思決定支援場面においてスキルを使わない場合と使う場合の違いがどのようなものかについて話し合いをおこなってください
- 話し合いが終わり全体に戻った後に4つのスキルについて説明します

# 目的のある会話と4つのスキル

- 意思決定支援においてその人の夢や希望を引き出すためには「目的のある会話」が重要になります
- 「目的のある会話」はその人の夢や希望を引き出し意思と選好を読み解くために用いられます
- 「目的のある会話」は4つのスキルを基に展開されますので、これからこの4つのスキルについて確認します



# スキル1： 意見なし助言なし

- 意思決定支援場面において意思決定者が語る思いに対して聞く側が意見や助言をしないことにより意思決定者の思いを引き出すことができます
- 意思決定支援場面において聞く側がうなずきをしたり「そうですね」「すごい」といった言葉がけをしたりすることは聞く側の意見を示すことになるので控えます

# 動画では

- 意見あり助言あり

「このままだと糖尿病になるって言われてるんだよね」

「糖尿病になるとおいしいもの食べられなくなるよ！」

- 意見なし助言なし

「このままだと糖尿病になるって言われてるんだよね」

「健康について他の人に聞いてみましようか？」

# スキル2： 現在と今後のことを話す

- 意思決定支援場面においては過去のことに話を向けず、これからのことに話を向けることにより意思決定者の思いを引き出すことができます
- 過去のことに話題が流れていったときには閉じた質問（Closed Question）で話題を転換することができます

# 動画では

- 過去のことを話す

「この間ゲームにお金使いすぎるって怒られちゃった」

「この間って！前もそんなことなかった？」

- 現在と今後のことを話す

「この間ゲームにお金使いすぎるって怒られちゃった」

「お金の使い方についてこうしたいなとか希望がある？」

# スキル3： 相手の話巻き込まれない

- 意思決定支援場面において話の細部にこだわると意思決定者が夢や希望を語りにくくなります
- 「なぜ？」「どうして？」という質問やリスクに関する話題に焦点が当たると意思決定者が夢や希望ではなく問題解決に目を向けるようになってしまいます

# 動画では

- 話に巻き込まれる

「グループホームの食事が揚げ物ばかりで」

「ひどいね！」

- 話に巻き込まれない

「グループホームの食事が揚げ物ばかりで」

「ほかに食べたい料理とかあるの？」

# スキル4： 大きく考える

- 意思決定支援場面において意思決定者の夢や希望を引き出すには大きく考えることが重要になります
- 意思決定者がしたいことを見極め、そのしたいことを広げることが大切になります

# 動画では

- 大きく考えない

「木を拾ってうちに持って帰っていっぱいあるんだよね」

「木を拾う？何のために？」

- 大きく考える

「木を拾ってうちに持って帰っていっぱいあるんだよね」

「流木ってお店で磨いて売ってるよ！」



# その後

- この後、再度話し合いの場が持たれ、長島さんから流木をアート作品にする仕事がしたい、海沿いの家に一人で住みたい、健康的な食習慣を身に付けたい、自分で預金通帳を管理したいといった夢や希望が語られた
- 最終的に長島さんが本人の強い希望により意思決定者となり、意思決定支援実践が行われることとなった

# まとめ

- 意思決定支援においては意思決定者の夢や希望を引き出すことが重要になります
- この夢や希望を制限なく引き出すためには目的のある会話をすることが大切になります
- 目的のある会話においては4つのスキルが必要になります